

生前に
お墓を建てる

なぜお墓を建てるのか。

その意義を考えてみたいと思います。



こがねや石材株式会社

心を育む

本来お墓とは、この世に生を享けたご両親、またその上の世代へと繋がる命の連鎖・親子の絆の証しです。先祖と対話するための施設でもあり、心の安寧と情操教育の一巻を担う大切な施設であると考えます。

ところが昨今お墓を建てる方を見ていると、自分が亡くなった後のお骨の保管場所として購入される方を見受けれます。そうした場合、そのご家庭では仏様が出来るまでお墓参りの習慣が生まれません。

都会で生まれ育つ子供達にとって、馴染みのない親の故郷への墓参には時間も費用も掛かりお墓参りの機会が少なくなりがちです。ご先祖との命の連鎖・親子の絆を大切に「心」を育む機会を逸してしまっています。統計でも、仏壇やお墓にお参りをする習慣のある家庭の子供は心優しい子になると言われています。

ご先祖の供養をする親の背中を見て育つた子供は、自然と絆の大切さを身に着け、ご家庭に幸せの連鎖が生まれます。

その「心」を育てるためにも、こがねや石材では「遥拝墓」の建立をお勧めいたしております。

- ① お参りしやすいお墓を選定した後、故郷のお墓にお参りをし、墓所内の「土」や「石」を持ち帰り、新設のお墓にお納めした上で開眼供養を行います。そうするとそのお墓は故郷のお墓と同じ意味合いを持つ「遥拝墓」となり、ご家族揃っての先祖供養の習慣が生まれます。

- ② ご家庭の根源つまりご先祖は、樹木の根に例えられ、それを養生しなければ子孫である枝葉が栄え花が咲くことはありません。

- ③ 物が豊かで心が貧しい世の中ですが、心豊かな世の中になることを願いがねや石材では「遥拝墓」の建立に努めてまいります。

